

2022年3月期 第1四半期決算説明資料



【 目 次 】

1. 損益の状況	(1) 第四北越フィナンシャルグループ 連結	1
	(2) 第四北越銀行 単体	2
2. 金融再生法開示債権	第四北越銀行 単体	3
3. 有価証券の状況	(1) 第四北越フィナンシャルグループ 連結	3
	(2) 第四北越銀行 単体	3
4. 預金等、貸出金残高	第四北越銀行 単体	4
5. 投資信託・公共債等預かり資産残高	第四北越銀行 単体	4

- (注) 1. 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 前年同期比、2020年6月末比欄の計数は、表上の数値による計算結果を表示しております。
3. 自己資本比率につきましては現在算出中につき確定次第、開示致します。

【計数の表示方法について】

2021年1月1日付で、当社の完全子会社である第四銀行及び北越銀行は、第四銀行を存続会社、北越銀行を消滅会社として合併を行い、商号を第四北越銀行に変更しております。

本決算説明資料における「第四北越銀行 単体」の計数につきましては、各項目の適正な期間比較を行う観点から、下記のルールに則り算出した計数を記載しております。

- 2022年3月期第1四半期、2021年6月末、2021年3月末の計数
第四北越銀行の計数
- 2021年3月期第1四半期、2020年6月末の計数
第四銀行及び北越銀行の計数を単純合算
- 2021年3月期の計数
2020年4月～12月の第四銀行及び北越銀行の計数と、2021年1月以降の第四北越銀行の計数を単純合算

1. 損益の状況

(1) 第四北越フィナンシャルグループ 連結

○連結粗利益…資金利益が1億円減益となったものの、役務取引等利益が5億円、その他業務利益が18億円それぞれ増益となったことから、前年同期比22億円増益の224億円となりました。

○経常利益…貸倒償却引当費用が3億円増加し、株式等関係損益が8億円減少したものの、連結粗利益の増益に加え、営業経費が12億円減少したこと等により、前年同期比22億円増益の64億円となりました。

○親会社株主に帰属する四半期純利益…法人税等税金関係費用が4億円増加し、前年同期比18億円増益の43億円となりました。

		2022年3月期		2021年3月期	(単位:百万円)
		第1四半期	前年同期比	第1四半期	(参考) 2021年3月期
連結粗利益	1	22,456	2,231	20,225	84,918
資金利益	2	15,506	△130	15,636	60,516
役務取引等利益	3	4,804	506	4,298	19,914
その他業務利益	4	2,145	1,855	290	4,486
営業経費	5	16,556	△1,259	17,815	71,960
貸倒償却引当費用	6	2,816	349	2,467	5,044
貸出金償却	7	1,447	1,042	405	1,906
個別貸倒引当金繰入額	8	1,186	△658	1,844	1,770
一般貸倒引当金繰入額	9	98	9	89	1,053
延滞債権等売却損	10	—	—	—	4
その他	11	82	△46	128	309
貸倒引当金戻入益	12	—	—	—	—
償却債権取立益	13	103	△215	318	996
株式等関係損益	14	2,602	△820	3,422	9,768
その他	15	658	181	477	△1,177
経常利益	【82億円】 16	6,449	2,290	4,159	17,500
特別損益	17	△7	△0	△7	220
税金等調整前四半期(当期)純利益	18	6,441	2,290	4,151	17,721
法人税、住民税及び事業税	19	1,725	427	1,298	5,951
法人税等調整額	20	211	35	176	327
四半期(当期)純利益	21	4,504	1,828	2,676	11,441
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益	22	144	△13	157	646
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益【52億円】	23	4,359	1,840	2,519	10,795

(注) 1. 連結粗利益＝(資金運用収益－(資金調達費用－金銭の信託運用見合費用))

＋(役務取引等収益－役務取引等費用)＋(その他業務収益－その他業務費用)

2. 【 】は2022年3月期第2四半期予想値

(参考)

(単位:百万円)

連結業務純益	24	5,726	3,090	2,636	13,265
--------	----	-------	-------	-------	--------

(注) 連結業務純益＝第四北越銀行業務純益＋その他の会社の業務純益＋関連会社業務純益×持分－内部取引

(2) 第四北越銀行 単体

○業務粗利益・・・マイナス金利政策の長期化による有価証券利息の減少を主因に資金利益が3億円減益となったものの、役務取引等利益が2億円、その他業務利益が12億円それぞれ増益となったことから、前年同期比12億円増益の199億円となりました。

○実質業務純益・・・業務粗利益の増益に加え、経費が10億円減少したことにより前年同期比23億円増益の45億円となりました。なお、国債等債券損益を控除したコア業務純益は前年同期比15億円増益の50億円となりました。

○経常利益・・・株式等関係損益が16億円減少し、ネット信用コストが5億円増加したものの、実質業務純益の増益等により前年同期比8億円増益の53億円となりました。

○四半期純利益・・・以上の結果、前年同期比7億円増益の38億円となりました。

(単位:百万円)

		2022年3月期		2021年3月期	(参考) 2021年3月期
		第1四半期	前年同期比	第1四半期	
業務粗利益	1	19,928	1,261	18,667	76,473
(コア業務粗利益)	2	(20,365)	(501)	(19,864)	(81,229)
資金利益	3	15,954	△305	16,259	62,311
うち投資信託解約損益	4	—	—	—	—
役務取引等利益	5	3,121	270	2,851	14,516
その他業務利益	6	853	1,295	△442	△354
うち国債等債券損益	7	△436	760	△1,196	△4,756
経費 (除く臨時処理分)	8	15,332	△1,059	16,391	65,956
うち人件費	9	7,914	△79	7,993	32,115
うち物件費	10	6,455	△785	7,240	29,267
実質業務純益	11	4,596	2,320	2,276	10,516
(コア業務純益) 【68億円】	12	(5,032)	(1,559)	(3,473)	(15,273)
(コア業務純益 (除く投資信託解約損益))	13	(5,032)	(1,559)	(3,473)	(15,273)
一般貸倒引当金繰入額①	14	95	△30	125	1,184
業務純益	15	4,500	2,350	2,150	9,331
臨時損益	16	830	△1,545	2,375	5,459
うち不良債権処理額②	17	2,510	297	2,213	3,658
(貸倒償却引当費用①+②)	18	(2,606)	(267)	(2,339)	(4,843)
うち貸倒引当金戻入益	19	—	—	—	—
うち偶発損失引当金戻入益	20	28	△19	47	50
うち償却債権取立益	21	102	△214	316	988
うち株式等関係損益	22	2,523	△1,684	4,207	10,890
経常利益 【60億円】	23	5,331	805	4,526	14,791
特別損益	24	△7	1	△8	239
うち固定資産処分損益	25	△7	1	△8	△284
うち減損損失	26	—	—	—	514
税引前四半期(当期)純利益	27	5,324	807	4,517	15,031
法人税、住民税及び事業税	28	1,285	252	1,033	4,236
法人税等調整額	29	186	△196	382	643
四半期(当期)純利益 【42億円】	30	3,852	751	3,101	10,150

(参考)

ネット信用コスト 14+17-19-20-21	31	2,475	500	1,975	3,804
-------------------------	----	-------	-----	-------	-------

- (注) 1. コア業務粗利益＝業務粗利益－国債等債券損益
2. 実質業務純益＝業務粗利益－経費 (除く臨時処理分)
3. コア業務純益＝コア業務粗利益－経費 (除く臨時処理分)
4. 【 】は2022年3月期第2四半期予想値

2. 金融再生法開示債権

第四北越銀行 単体

○不良債権額は前年同期比120億円増加し、995億円となり、不良債権比率も0.23%上昇の1.93%となりました。
○破産更生等債権は15億円減少したものの、危険債権は129億円、要管理債権は6億円それぞれ増加しました。

	(単位:億円)		(参考) (単位:億円)	
	2021年6月末	2020年6月末比	2020年6月末	2021年3月末
破産更生等債権	59	△ 15	74	64
破綻先債権	20	△ 2	22	18
実質破綻先債権	38	△ 14	52	45
危険債権	878	129	749	810
要管理債権	57	6	51	41
小計 (A)	995	120	875	917
正常債権	50,527	△ 20	50,547	50,303
債権額合計 (B)	51,523	100	51,423	51,220
不良債権比率 (A) ÷ (B)	1.93%	0.23%	1.70%	1.79%

3. 有価証券の状況

○第四北越フィナンシャルグループ 連結
有価証券の評価差額は588億円の含み益となりました。
○第四北越銀行 単体
有価証券の評価差額は628億円の含み益となりました。

(1) 第四北越フィナンシャルグループ 連結

	(単位:億円)				(参考) (単位:億円)			
	2021年6月末		2020年6月末		2021年3月末			
	貸借対照表 計上額	評価差額	貸借対照表 計上額	評価差額	貸借対照表 計上額	評価差額		
		うち益	うち損			うち益	うち損	
満期保有目的	127	0	0	559	5	5	0	275
その他有価証券	24,658	588	817	24,372	465	849	384	24,150
株式	1,346	428	469	1,127	310	397	87	1,423
債券	14,881	47	94	14,586	78	124	46	14,947
その他	8,429	111	252	8,658	75	327	251	7,779
うち外国債券	4,245	138	152	4,834	277	279	1	4,052

(2) 第四北越銀行 単体

	(単位:億円)				(参考) (単位:億円)			
	2021年6月末		2020年6月末		2021年3月末			
	貸借対照表 計上額	評価差額	貸借対照表 計上額	評価差額	貸借対照表 計上額	評価差額		
		うち益	うち損			うち益	うち損	
満期保有目的	127	0	0	559	5	5	0	275
その他有価証券	24,541	628	867	24,254	508	887	379	24,027
株式	1,229	453	486	1,009	339	401	62	1,300
債券	14,881	73	119	14,586	106	151	45	14,947
その他	8,429	100	260	8,658	62	334	271	7,779
うち外国債券	4,245	141	155	4,834	279	281	1	4,052

4. 預金等、貸出金残高

第四北越銀行 単体

○貸出金残高は、県外の低利貸出を抑制したことから事業性貸出が減少したものの、消費性貸出や公金貸出が増加したことなどから、全体では前年同期比123億円増加し、4兆9,913億円となりました。
○譲渡性預金を含めた預金等残高は、前年同期比3,331億円増加し、8兆3,467億円となりました。

	(単位:億円)		(参考)(単位:億円)	
	2021年6月末	2020年6月末比	2020年6月末	2021年3月末
貸出金残高	49,913	123	49,790	49,596
うち県内貸出金	38,154	323	37,831	38,120
うち中小企業等貸出	32,220	△400	32,620	32,643
うち消費性貸出残高	13,551	331	13,220	13,481
預金等残高	83,467	3,331	80,136	82,234
うち県内預金等残高	81,736	3,358	78,378	80,521
うち個人預金等残高	54,614	2,070	52,544	53,609

(注) 預金等残高＝預金＋譲渡性預金

5. 投資信託・公共債等預かり資産残高

第四北越銀行 単体

○預かり資産残高は前年同期比299億円増加し、8,241億円となりました。
公共債が59億円減少したものの、投資信託が157億円、保険が202億円それぞれ増加いたしました。

	(単位:億円)		(参考)(単位:億円)	
	2021年6月末	2020年6月末比	2020年6月末	2021年3月末
預かり資産残高	8,241	299	7,942	8,155
投資信託	1,845	157	1,688	1,788
公共債	857	△59	916	863
保険	5,538	202	5,336	5,503

(注) 保険残高については、子銀行の合併に伴い算出方法を統一したため、過年度との比較の観点から、過去に遡り変更した計数との比較を記載しております。

以 上